

事業多角化 健康後押し

県産資源で肌ケア商品

外用剤メーカーのジャパンメディック（富山市横越、前田和也社長）は、主力の医薬品製造以外の事業を拡大している。本年度から、米ぬかや酒かすなど県産の未利用資源を活用し、新たなスキンケア商品の開発に着手した。遊休地でのオリーブ栽培や、キッチンカーを使ったおにぎり販売も開始。ヘルスケア需要の高まりを受け、多様な角度から健康事業を進めている。

（鴨島舞）

ジャパンメディック

ジャパンメディックは塗り薬など、薬局・薬店で販売する一般用医薬品の外用剤を中心に開発・製造を手がける。2030年に向けた中期ビジョンで、経営基盤強化を目指し、医薬品以外の商品開発や、社員の成長促進に取り組む方針を掲げた。一環として、製薬ノウハウを生かしたスキンケア

商品開発に力を入れ、25年秋に初の医薬部外品となるフェースマスクを発売。今年3月には、新事業を幅広く担う「くすりだけをつくらない推進室」を設けた。県産の未利用資源を用いた商品開発は、地域での資源循環にもつながる試みとして発案した。県の「中小企業成長応援ファンド」を

活用し、県産の米ぬかや酒かすの発酵液を原料とした敏感肌用化粧水やクリームを作る。約3年後の商品化を目指す。

米ぬかや酒かすは廃棄されることが多い一方、コメ由来の発酵液は肌の潤いを保つ成分を生成し、抗酸化作用も期待できるとされ、活用への研究開発が進んでいる。同社は今年から県食品研究所の協力を得て、より効果的な発酵の期間や温度といった条件を検証して



米ぬかや酒かすの発酵条件を研究する田原さん
＝県食品研究所



キッチンカーを使ったおにぎりの販売も始めた

いる。

米ぬかや酒かすは県内農家からの調達を想定する。くすりだけをつくらない推進室の田原美佳さんは「地元の農業とウィンウィン（相互利益）となるビジネスにしたい」と意気込む。

今秋には、富山市池多地域の休耕地を活用し、オリーブ約50本を植樹する。地域活性化につなげ、収穫した果実から絞ったオリーブオイルを用いた新製品開発も検討する。

25年度には、地域貢献活動も兼ね、社員が県内の催事にキッチンカーで出向き、おにぎりを販売する試みも始めた。社員によるビジネスコンテストで出たアイデアが基になった。前田社長は「一連の取り組みを主力の医薬品製造事業に生かしていきたい」と話す。